

が付かない、呼び捨てのような種も多かった。しかし、60年代半ば以降の図鑑からは、「ーガイ」をつける傾向が強くなった(岡本, 2002)。例えば、吉良(1954)ではシロカラマツ(カラマツガイ科)との和名が掲載されているが、現在ではシロカラマツガイの和名が通常用いられている。貝類の種和名にはかなりの変遷が見られるのは事実らしい(岡本, 2002)。

現在、オトメダカラはオトメダカラガイと呼ばれることもある。オトメダカラガイは乙女+(宝+貝)なので、明らかに(4)で述べた、本来なら濁音化しないはずの右枝分かれ構造を取る。しかし、「ダ」で連濁が生じているので、オトメダカラガイは佐藤(1989)には当てはまらない例外のように思える。もっとも、鈴木(2007)によれば、「ーダカラガイ」形は「ーダカラ」を元に人工的に作られたものに過ぎない。よって、仮に最初から「ーダカラ」形がなければ、「オトメダカラガイ」になっていたはずだ、と指摘している。

謝辞

言語学的観点から連濁について多くの助言を下さった福井大学教育学部の高山善行教授(国語学)に厚く御礼申し上げる。また、貝類に和名について助言をいただいた本学会の青木淳一博士に深謝申し上げる。

引用文献

- 阿部 永監修, 1994. 日本の哺乳類. 東海大学出版会. 195 pp.
遠藤邦基, 1981. 非連濁の法則の消長とその意味. 一濁子音と鼻音との関係から一. 国語国文, (559): 38-54.
林 匡夫・森本 桂・木元新作編, 1984. 原色日本甲虫図鑑 IV. 保育社. 438 pp.
林 弥栄監修, 1989. 山溪ハンディ図鑑 1. 野に咲く花. 山と溪谷社. 623 pp.
Hoshina, H., 2012. Review of the tribes Sogdini and Leiadini from

- Japan and North Chishima Islands. Part II. Genera *Hydnobius* and *Leiodes* (Coleoptera: Leiodidae). Acta Entomologica Musei Nationalis Pragae, 52, supplementum, 1: 1-168.
井上 寛・岡野磨瑠郎・岡野磨瑠郎・白水 隆・杉 繁郎・山本英穂, 1965. 原色日本昆虫大図鑑 I (蝶蛾編). 北隆館. 284 pp.
伊藤修四郎・奥谷禎一・日浦 勇編著, 1977. 原色日本昆虫図鑑 (下). 保育社. 385 pp.
川那部浩也・水野信彦・細谷和海編, 1989. 日本の淡水魚. 山と溪谷社. 719 pp.
吉良哲明, 1954. 原色日本貝類図鑑. 保育社. 240 pp.
窪蘭晴夫, 1999. 日本語の音声. 岩波書店. 246 pp.
窪蘭晴夫監修・田中真一・窪蘭晴夫著, 1999. 日本語の発音教室. 理論と練習. くろしお出版. 137 pp.
黒澤良彦・久松定成・佐々治寛の編, 1985. 原色日本甲虫図鑑 III. 保育社. 500 pp.
小松英雄, 1981. 日本語の音韻. 中央公論社. 348 pp.
松橋利光・奥山風太郎, 2002. 日本のカエル+サンショウウオ類. 山と溪谷社. 191 pp.
松橋利光・富田京一, 2007. 日本のカメ・トカゲ・ヘビ. 山と溪谷社. 256 pp.
望月賢二監修, 1997. 図説魚と貝の大事典. 柏書房. 497 pp.
日本チョウ類保全協会編, 2012. フィールドガイド日本のチョウ. 誠文堂新光社. 327 pp.
岡本正豊, 2002. 図鑑ごとに違う貝の和名. 統一が混乱を招いた. p. 75-103. 青木淳一・奥谷喬司・松浦啓一編, 虫の名, 貝の名, 魚の名. 和名にまつわる話題. 東海大学出版会. 242 pp.
佐竹義輔・原 寛・亘理俊次・富成忠夫編, 1993. フィールド版日本の野生植物. 木本. 平凡社. 219 pp.
佐藤大和, 1989. 複合語におけるアクセント規則と連濁規則. p. 233-265. 杉藤美代子編, 講座日本語と日本語教育. 第2巻. 日本語の音声・音韻 (上). 明治書院. 394 pp.
鈴木 豊, 2007. ライマン法則例外の成立過程について. 「タカラガイ」(宝贝)を後部成素とする語の連濁一. 文京学院大学外国語学部文京学院短期大学紀要, (7): 278-294.
高野伸二, 1982. フィールドガイド日本の野鳥. 日本野鳥の会. 342 pp.
Tominaga, K. & S. Kawase, 2019. Two new species of *Pseudogobio* pike gudgeon (Cypriniformes: Cyprinidae: Gobioninae) from Japan, and redescription of *P. esocinus* (Temminck and Schlegel 1846). Ichthyological Research, 66: 488-508.
上野俊一・黒澤良彦・佐藤正孝編, 1985. 原色日本甲虫図鑑 II. 保育社. 514 pp.
安永智秀・高井幹夫・川澤哲夫編, 2001. 日本原色カメムシ図鑑. 第二巻. 全国農村教育協会. 350 pp.

(2019年10月26日受領, 2019年12月8日受理)

【短報】シモジマルキマワリの伊良部島からの記録



図1. 伊良部島産シモジマルキマワリ.

ゴミムシダマシ科シモジマルキマワリ *Amarygmus* (*Amarygmus*) *picitarsis* (Fairmaire, 1882) は、従来国内では沖縄県宮古諸島下地島以外では記録がなかった(秋田・益本, 2016)。昨年、筆者は同種を同諸島の伊良部島において採集したので、国内新分布地として報告する。

1 ex., 沖縄県宮古島市伊良部(伊良部島), 22. V. 2019 (図1)。

街灯(水銀灯)直下の樹幹に静止している個体を採集した。

末文ながら、同定とご意見を賜った秋田勝己氏に厚くお礼申し上げます。

引用文献

- 秋田勝己・益本仁雄, 2016. 月刊むし・昆虫大図鑑シリーズ9, 日本産ゴミムシダマシ大図鑑. 302 pp. むし社, 東京.

(須田 亨 372-0006 伊勢崎市太田町 770-4)